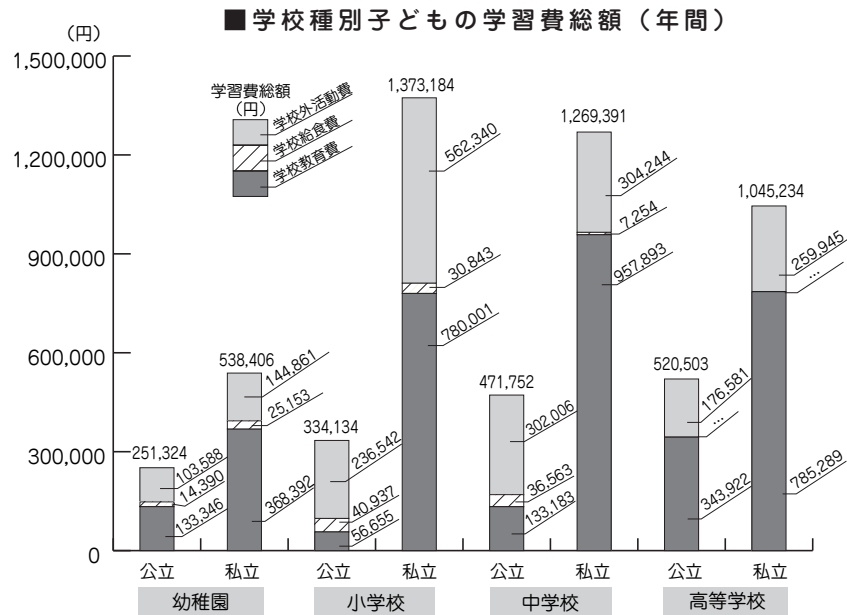


## 教育費 ～第3回(2008年版)～

### 【3-1】私立小学校の学習費は公立の4.1倍、公立幼小で学校外活動費が増加



出 典：「子どもの学習費調査報告書」文部科学省（平成18年度）  
調査対象：公立並びに私立の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校（全日制）の幼児・児童・生徒

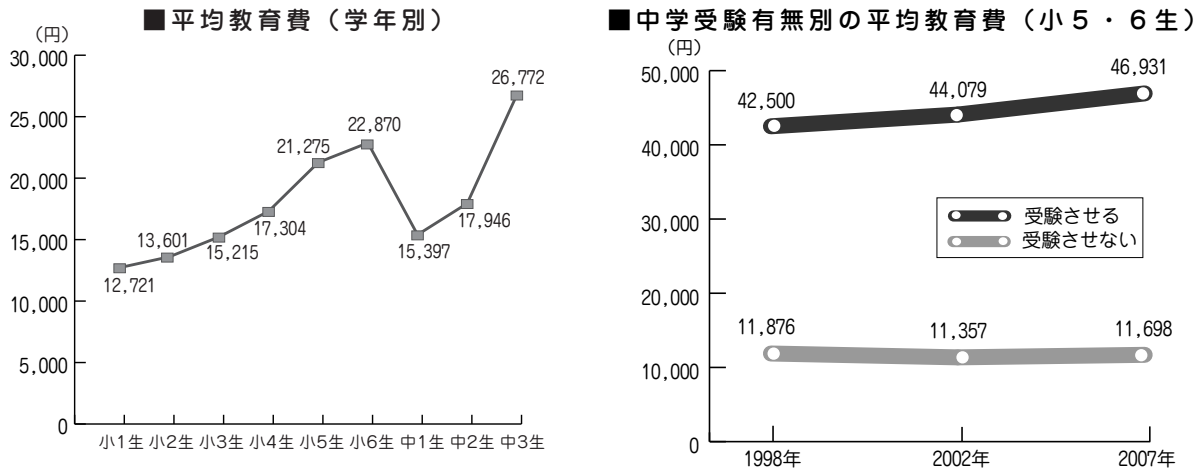
文部科学省の「子どもの学習費調査」から学校種別の学習費総額をみると、私立小学校が137万3千円ともっとも高く、次いで私立中学校126万9千円、私立高等学校104万5千円となっている。

公立と私立を比較すると、幼稚園では私立が公立の2.1倍、小学校では4.1倍、中学校では2.7倍、高等学校では2.0倍となった。

平成16年度の同調査の結果（『教育費』第1回【1-1】参照）と比較してみると、私立中学校でわずかな減少がみられたものの、他は0.8%～6.4%増加しており、とくに公立幼稚園、公立小学校で「学校外活動費」（塾、習いごと等）が大きく増加（幼稚園11.5%、小学校8.1%）していることがわかる。

また、学習費総額の「学校教育費」（授業料、教材費、学用品等）、「学校給食費」および「学校外活動費」の構成比をみると、授業料を必要としない公立小・中学校においては「学校外活動費」の構成比が高く、公立小学校で7割、公立中学校で6割を超えている。逆に、私立幼稚園、私立中学校および公私立高等学校では「学校教育費」の構成比が高く、私立幼稚園で6割、私立中学校、私立高等学校では7割を超えている。

## 【3-2】 中学受験の有無で、教育費支出の差が拡大

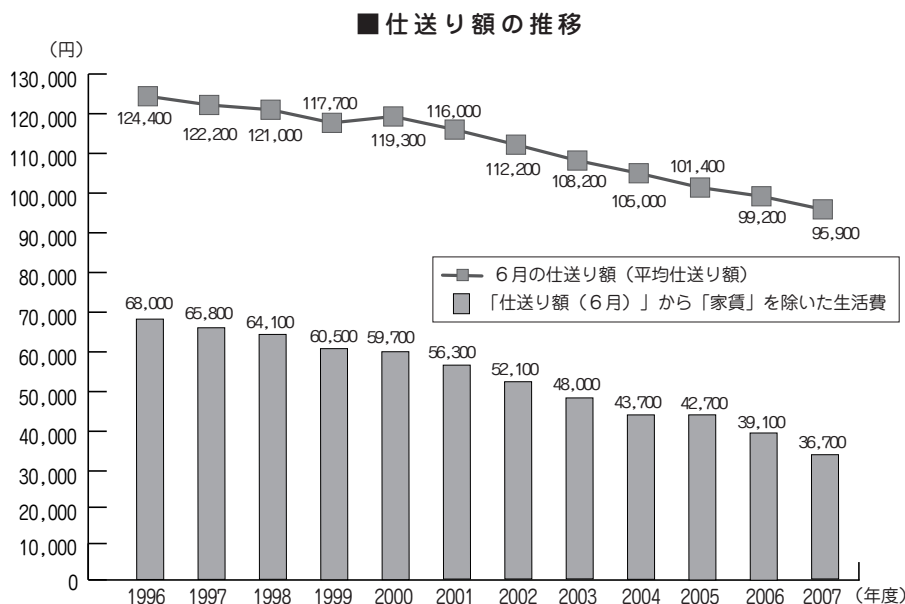


出 典：「第3回子育て生活基本調査 速報版」Benesse 教育研究開発センター（2008）  
調査対象：首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）の小学1年生から中学3年生の子どもをもつ保護者

1か月にかかる習い事、通信教育、塾、レッスン料等の費用の合計をたずねた調査結果をみると、学年別の平均教育費は、中3生が26,772円と最も多く、次いで小6生が22,870円、小5生が21,275円となっている。中3生、小6生の支出が多くなるのは、それぞれ高校受験、中学校受験を控え学習塾等への支出が増えるためと考えられる。

平均教育費を中学受験予定の有無別でみると、私立中学を「受験させない」家庭の教育費は1998年からほぼ横ばいなのに対し、「受験させる」家庭での教育費は年々増加傾向にある。「受験させる」場合と「受験させない」場合の教育費の差は、1998年には30,624円であったのが、2002年には32,722円、2007年には35,233円と、徐々に拡大していることがわかる。

## 【3-3】 仕送り額減少に伴い、大学生の生活費が大幅減



出 典：「私立大学新入生の家計負担調査」東京私大教連（2008）  
調査対象：2007年度に私立大学（短期大学を含む）に入学した新入生の家庭（保護者・父母）

私立大学新入生の家計負担調査から、出費が落ち着く「6月」の仕送り額の推移をみると、1996年には12万4千円であったのが、その後減少を続け、2007年には9万6千円と11年間で2割以上減少していることがわかる。

「仕送り額から家賃を除いた生活費」をみると、1996年には6万8千円であったのが、2007年には3万7千円と、1996年の約54%にまで減少し、1986年の調査開始以来最低の値となった。

一方、家賃は1996年の56,400円から、2007年の59,200円と11年間で5%弱の増加にとどまっているものの、仕送り額の減少により、仕送り額に占める家賃の割合は増加を続け、2007年には61.7%と6割を超えた。